

## 学会ニュースNo.83 トピックス

- ・講演会のお知らせ
- ・2005年度総会・研究発表大会ならびに評議員会のお知らせ
- ・臨地研究会報告
- ・地理の言葉「天然ダム」
- ・研究発表大会申込について(再掲)
- ・立正地理学会ホームページ開設のお知らせ

## 会 告

### ○2004年度(第33回)講演会のお知らせ

1. 講演者：新井 正 氏 (立正大学)
2. 演 題：東京と離島と長江の水
3. 日 時：2005年3月20日(日) 15:00より
4. 場 所：立正大学大崎校舎 341教室(大崎校舎3号館4階)

新井先生は、立正地理学会前会長で、本年度をもって立正大学を定年退職されます。久々の立正大学大崎校舎における行事です。ふるってご参加下さい。

### ○2005年度(第60回)総会・研究発表大会のご案内

1. 日 時：2005年6月4日(土) 9:20より
2. 会 場：立正大学熊谷校舎6101教室(6号館1階)  
※当日、校内に案内を掲示いたします。
3. 総会委任状について  
同封の委任状に必要事項(懇親会参加の可否を含む)をご記入の上、5月27日(金)までにご返送下さい。
4. 昼 食：学生食堂が営業しております
5. 懇親会
  - 1)会場：立正大学熊谷校舎学生食堂(ステラ)1階
  - 2)会費：一般4,000円, 学生2,000円
  - 3)時間：17:00~19:00

### ○2005年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2005年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

1. 日 時：2005年6月3日(金) 18:00より
2. 場 所：立正大学熊谷校舎

詳細については、次号ニュースにて評議員の方に同封する出欠確認ハガキをご確認下さい。  
(集会委員会)

## ○臨地研究会報告

### 第99回臨地研究会(武蔵野台地)報告

2004年11月23日(火・勤労感謝の日), 小長谷洋之会員(立正大学非常勤講師)と谷口智雅会員(立正大学非常勤講師)の案内により「武蔵野の土地利用・水利用—地域変容と景観—」をテーマとして, 立正地理学会第99回臨地研究会が行なわれた。参加者は20名であった。

当日は風もなく秋晴れとなった。府中駅と府中本町駅に分かれて集合し, 伊勢丹府中店前で合流した。伊勢丹屋上からビルの建ち並ぶ府中駅前を俯瞰する。旧甲州街道を挟み, すぐ南側に見える大國魂神社から国指定天然記念物の馬場大門ケヤキ並木が続いている。このケヤキ並木は, 源頼義・義家父子が前九年の役を鎮定した1062年に寄進したとされ, 並木道には源義家公の



銅像が立てられている。大國魂神社は111年の創祀と伝えられる武蔵国の総社であり, 境内はたくさんの人で賑わっていた。一行は東京競馬場へ向かった。当日の競馬はなく, 静かな場内の公園の陽だまりには親子連れが長閑に遊んでいた。JRA競馬博物館を見学した後, 是政八幡神社を経由し西武多摩川線是政駅へ向かい, そこで各自昼食となった。

昼食後は是政駅から多磨駅まで乗車し, 東京外国語大学を抜けた。臨地研究会当日は同大学の学園祭に重なり, 構内は外語大ならではの国際色豊かな雰囲気の出店で賑わっていた。同大学は, 旧調布基地(関東村)跡地の一部に, 国・都・地元3市による調布基地跡地土地利用計画に基づいて2000年に移転してきた。「関東村」は東京オリンピックの際に東京代々木から同地に移転してきた米軍基地の別称であり, 1974年に米軍から全面返還された。大学の東側に隣接して武蔵野の森公園がある。この公園も同計画により2000年に開園したもので, まだ整備中の区画があるものの, 調布飛行場を間近に望むことができる。

調布飛行場に着陸する小型機をしばらく眺めた後, 新撰組局長を勤めた近藤勇の生家跡へ向かう。近藤勇の生家(宮川家屋敷)は1943年に調布飛行場の滑走路延長線上にあることから立ち退きを要請され, 現在は井戸が残るのみである。すぐ近くの龍源寺には近藤勇の墓もあり, NHK大河ドラマの新撰組ブームによって, 双方で多くの人出が見られた。

野川公園を抜け, 新小金井駅へ向かう。野川公園は国分寺崖線に接し, 園内には多くの湧水がみられる。野川は国分寺市の日立中央研究所の湧水地を源流とし, 国分寺崖線からの湧水などを集め, 多摩川までの約20kmを流れている。

一行は新小金井駅から再び西武多摩川線に乗り, 武蔵境駅で下車, 杵築神社へ向かった。この神社は松江藩初代藩主の松平直政公によって約350年前に創建された。境内には1881年に境本村と近隣22町村の富士講(丸嘉講)によって作られた富士塚や富士五湖を模した池がある。最後に本村公園遊歩道へ向かう。この公園は武蔵境駅から境浄水場までの資材

運搬用の引込み線跡を遊歩道として整備したものである。すぐ東側には三鷹駅からグリーンパーク野球場跡（現・武蔵野市役所，NTT開発センター）までの線路跡を整備した遊歩道があり，玉川上水や品川用水分水口にも近い。今回の臨地研究会は本村公園で解散となった。

最後になりましたが，案内をして頂きました小長谷会員と谷口会員には，記して厚くお礼を申し上げます。（集会委員会：山田淳一）

## 第100回臨地研究会(佐原)報告

2004年12月4日(土)，第100回臨地研究会が千葉県佐原市で開催された。テーマは「自然と歴史が育む町 佐原」，案内人は石津航平会員(佐原高校)，田村利男会員(富里高校)，堀江克浩会員(多古高校)，参加者は37名であった。

当日は，松井秀郎氏による講演会を午前中に終え，山田うなぎ店で昼食の後，巡検が開始された。利根川の支流である小野川沿いを開運橋から上流へ向かった。この一帯は重要伝統的建造物群保存地区として指定されており，関東地方では初の指定地区となっている。佐原は明治から昭和にかけて利根川舟運による米や醤油などの取引の要衝として栄えた場所であり，水郷随一の名勝としても有名である。

小野川沿いの店前には当時の舟運に使われた河岸が残存しており，商いの規模によって河岸の幅が異なる。河岸をもつ店として，店構えを160年以上変えていない醤油屋の「正上」は，江戸時代より醤油の醸造をしていた店である。現在は佃煮などの製造販売を主としている。一旦，忠敬橋から東へ小野川を外れ，三菱館(旧三菱銀行)を訪れた。三菱館は煉瓦を使った2階建ての洋館で，内部は吹き抜けになっている。現在，ここは市に寄贈され，絵画などのギャラリーや観光案内所としての役割を担っている。

再び小野川沿いに戻る。道路に沿った変形の敷地のため，主屋の角の柱を五角形にしてある中村屋商店を眺めつつ，伊能忠敬旧宅を訪れた。伊能忠敬は，家業を営む傍ら好きな学問を独学で学び，50才から江戸に出て本格的に勉学に励んだ人物である。その後，日本初の実測による日本地図を作成した。伊能忠敬旧宅の前には，「樋橋(とよはし)」という橋が架かっており，もともと灌漑用水を通す樋に橋が架けられてできた橋である。水が流れると，小野川にこぼれる音がジャージャーと聞こえることから別名「ジャージャー橋」と呼ばれて親しまれてきた。現在，数分おきに橋の中程から見事に水が流れるようになっている。

次に，伊能一族の茂左衛門家の宅地跡に建てられた伊能忠敬記念館を見学した。1998年に開館したこの記念館は，伊能忠敬の生涯を，地図や測量具の展示，ハイビジョン映像や情





報検索端末機などの近代設備によって学ぶことができる。そして、建物は近代的なつくりの玄関部分と、裏手の茂左衛門家宅地跡の歴史的な部分、2種類の外観を併せもつ。裏手において集合写真を撮影した。

最後に訪れた東薫酒造は、佐原にわずか2軒残った酒造の1つである。東薫酒造は舟運と水郷地帯の良質な早場米という酒造りに適した環境にあり、170年の歴史と伝統をもつ。酒蔵内での仕込みの工程を見学させてもらう。酒造見学の後、もと割烹旅館であり、登録有形文化財にも指定されている旧木内旅館の外観を眺め、佐原駅にて解散となった。

今回、日本における地図作成の先駆的存在である伊能忠敬の故郷で臨地研究会を開催することができた。佐原の歴史的景観溢れる町並みは地理学を学ぶものにとって大変興味深いものであった。最後に、今回の臨地研究会の案内をしてくださった石津航平会員、田村利男会員、堀江克浩会員には深くお礼申し上げます。（集会委員会：梶浦 岳）

## ○地理の言葉 「天然ダム」

島津 弘

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震では、地震動による家屋の倒壊に加えて、それを上回る斜面崩壊が生じた。さらに、その被害を拡大させているものに天然ダムがある。

「地域研究」にも天然ダムの語の使われ方、新潟県中部地震で形成された天然ダムに関わることを書いたが、ここには「天然ダムとは何か」にしぼって、簡単に説明する。

地震や豪雨などにより崩れた土砂が川を塞ぎ止め、その上流側に水がたまった状態が出現することがある。天然ダムとはその塞ぎ止めたダムのようなもの（地形）のことである。

いままで天然ダムという言葉は一般にはなじみがなかったが、実は日本で形成された大規模なものに限っても100年あたり数地域で形成されてきた。その多くは形成後数分～数十年で決壊し、下流に大きな被害をもたらした。江戸時代以降に生じた大規模なものに限っても1683（天和3）年地震による鬼怒川上流（五十里）の塞ぎ止め、1847（弘化4）年善光寺地震による千曲川支流犀川の塞ぎ止め、1888（明治21）年磐梯山噴火にともなう桧原湖、小野川湖、秋元湖（それぞれ現存）などの形成、1889（明治22）年十津川水害における28以上の天然ダムの形成（1つのみ現存）、1915（大正4）年焼岳噴火による上高地の梓川の塞ぎ止め（現存）、1934（昭和9）年の石川県手取川水害における天然ダム形成・決壊の関与、1953（昭和28）年有田川水害における8つの天然ダムの形成、1984（昭和59）年長野県西部地震における御嶽山崩壊による塞ぎ止め（現存）などがある。これ以外にも関東大震災の時に神奈川県秦野市に形成されたその名も「震生湖」も天然ダムである。

天然ダムはその形成による上流側谷底への浸水のみならず、決壊したときに巨大土石流を発生させるという二次、三次災害を引き起こす。犀川や手取川ではその決壊により直径5m～10数mの巨大な岩塊が運ばれた。ヒマラヤ山脈に多数ある谷氷河が運んできた堆積物（ターミナルモレーン）が谷を塞ぎ止めてつくられた氷河湖も天然ダム的一种である。地球温暖化による谷氷河の融解が氷河湖の決壊を引き起こし、またその危険にさらされている氷河湖も多数ある。いままであまり注目されることがなかった天然ダムではあるが、実に身近なものであり、その危険性を十分に認識しておく必要がある。また、地球環境変動とも密接に結びついているものもあることも覚えておいてほしい。

## ○2005年度研究発表大会申込について(再掲)

## 1. 発表申込について

- ・発表希望者は、以下の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2005年3月31日までに集會委員会宛に送付して下さい。

※メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。アドレス：geosoc@ris.ac.jp

- ・発表の形式は、口頭発表とポスター発表があります。どちらかを選択して下さい。
- ・発表要旨集は作成しません。発表者は必要に応じて発表資料を用意して下さい。
- ・スライド・OHP・液晶プロジェクター使用の場合はその旨を明記して下さい（液晶プロジェクターの場合は、パソコンを各自ご用意下さい）。
- ・研究発表者は、研究発表要旨を必ずご提出下さい。研究発表要旨は『地域研究』に掲載いたします。『地域研究』の執筆要項にしたがってご執筆の上、大会当日に編集委員会までご提出下さい。

※その他につきましては、学会ニュースNo.82をご参照下さい。

## 2005年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)	
・発表題目：	
(↓いずれかを○でかこんで下さい)	
・発表形式	： 口頭発表 ・ ポスター発表 ・ 地理写真
スライド	： 使用する ・ 使用しない
OHP	： 使用する ・ 使用しない
液晶プロジェクター	： 使用する ・ 使用しない
・連絡先	
氏名	：
住所	：〒 —
電話番号	： — — ( 自宅 ・ 勤務先 )

※発表申込用紙はコピーの上、ご利用下さい。

## ○お知らせ

### 立正地理学会ホームページ開設のお知らせ

立正地理学会のホームページができました。ホームページの内容は随時更新していますのでぜひ一度ご覧下さい。ホームページ上には研究発表大会、地方例会、臨地研究会および講演会のお知らせを随時載せています。また、発表申し込み、地方例会の参加などについて電子メールで申し込みを受け付けています（従来通りハガキでも受け付けます）。住所変更、会費納入についてのお問い合わせも電子メールで受け付けています。ぜひ、ご利用下さい。

立正地理学会ホームページ：<http://www.ris.ac.jp/geosoc/>

電子メールアドレス：geosoc@ris.ac.jp

(HP担当：瀬戸，高田)

### 今年度卒業予定の立正大学地理学科4年生の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生の学生会員の方々は、来年度以降も会員として継続されることをお勧めいたします。卒業式にて継続案内と郵便振替用紙を配布いたします。年会費は一般会員4,000円、学生会員2,500円となっております。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。

### 原稿募集のお願い

会員の皆様からの原稿を募集しております。「会員の声」「地理の言葉」「スケッチ」や「地理写真」など皆様からの原稿をお待ちしております。

(編集委員会)

### ○お詫び

前号(学会ニュースNo.82)掲載の「研究発表大会申込用紙」の一部に必要事項が欠落しておりました。お詫びいたします。訂正版を今号に掲載してありますので、ご利用下さい。

(編集委員会)

### 編集後記

今号は、会告や臨地研究会報告など、記事が盛りだくさんとなりました。講演会は久しぶりに大崎校舎での開催となります。皆様ぜひご参加下さい。

## 立正地理学会ニュース No.83

2005年2月9日発行 編集者 立正地理学会編集委員会

発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内

電話 048-539-1660 振替 00130-8-13453